
人生は１００歳からよ！

栗山ぷにねこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人生は100歳からよ！

【Nコード】

N9064N

【作者名】

栗山ぷにねこ

【あらすじ】

2007年7月～2010年4月に掲載されていたあの短編小説が、満を持して復活！40年前に会社を辞め、今は年金暮らししている100歳の老婆、角能美由^{かどのみゆ}。TVに出てチャホヤされているグラビアアイドルを見て腹を立てた彼女はなんと、自らのヌード写真集を出す事に！

「ふう、やっぱり日本茶はいいわねえ」

かどのみゆ
角能美由は日本茶を飲んでいた。

美由は100歳。40年前に長く勤めていた会社を定年退職し、今はマンションで年金生活をしている。

「さっ、この間録画した演歌の番組でも見ましょ」

美由はTVをつけた。

【つてゆうかあゝ、マジありえないしいゝ。

お前そのしゃべり方やめろよ！】

画面にはクイズ番組が映り、グラビアアイドルやお笑い芸人などが盛り上がっている。

「ん？」

美由はある女に目がいった。

浅居ミエ。

歳は25歳。髪は黒く長く美しく、顔は他どの娘よりもかわいい。

ギャル風のしゃべり方なのが賛否両論を呼んでいるが、それ以外には非の打ち所の無いグラビアアイドルである。

ミエを見た美由は燃え上がった。

「こんな小娘が世間の注目を集めてるなんて！ 見てらっしゃい！ 私も世間の注目を集めてみせるわ！」

「で、あたしの所に来たのね」

うるしやきいずえ
漆崎梢恵はうんざりしていた。

梢恵は美由より50歳も下の50歳で、ベテランカメラマンである。

「そつよ。若い小娘ばかり写真集やDVDが売れたり、お笑い芸人と熱愛報道されたりするなんて許せない！ 許せるわけが無いわ

！」

「美由さんお笑い芸人と熱愛報道されたいの？」

「別にされたいわけじゃないわ。とにかく若い奴ばっかり注目を集めるのが気に入くないのよ！ これからの時代はそう、老婆よ！」

「いや、どんなに文明が発達しても老婆の時代は来ないと思うわ」

「何言ってるの？！ いいこと、信じていれば必ず夢は叶うのよ！」

「まあ確かに夢と希望を信じて生きて行くのは素晴らしい事ね」

「だからきつと世間はいつか老婆を認めるわ。そう、ヒゲMEN、

Sが市民権を得たように、老婆が市民権を得るの！」

「それとこれとは話が別なような気がするんだけど……」

「うるさいわね！ あなた50年も生きてたら「最初から無理って言ってたら何も始まらない」って事くらい分かるでしょう！ いいからさっさと撮影を始めるわよ！」

「何の？」

「決まってるじゃないの！ 私のヌード写真集よ！」

一瞬にして青ざめる梢恵。

「そんなの出版社が取り合ってくれるわけないでしょう」

「だから自費出版なのよ！」

「どこの世界に自分のヌード写真集を自費出版するおばあさんがいるのよ?!」

「ここにいるわ！」

完全に呆れる梢恵。

「分かったわよ。ヌードでもなんでも撮ればいいんでしょ！」

「そうよ！ 撮ればいいのよ！」

こうして美由と梢恵による写真撮影が始まった。

撮影は毎日、美由の家や梢恵の家、廃墟になったビルや夜の公園など色々な場所で行われた。

「さあ次はこのポーズよ。これで世の男たちのハートは私のものよ！」

美由は裸で自身に満ち溢れたセクシーポーズをした。
しかし、彼女は100歳。

男達はときめきどころか吐き気を催して悶絶するしかないであろう。

「はいはい」

世にも恐ろしいセクシーポーズを写真に収める梢恵。

「ほほほほほ！ そんな写真集が売れると思ってるの？」

声がし、美由と同じ100歳と思わしきじいさんが現れた。

「誰よ？」

おおさわけんざぶろう

「大沢健三郎100歳！ これからは「ちよい不良おやじ」ならぬ

「老いばれオカマ」の時代よ！」

「「ちよい不良おやじ」とオカマは全然違うわよ」

冷や汗を掻く梢恵。

「何言ってるのよ！ これからは「老婆」よ！」

「いいえ、「老いばれオカマ」よ！」

「だからどっちの時代も来ないって！」

またしても冷や汗を掻く事になってしまふ梢恵。

「こうなったら勝負よ！ あたしもあんたと同じく自費出版の写真集を作るから、どっちが売れるか勝負するの！」

美由の方をビシッと指す健三郎。

「望むところよ！」

こうして美由は以前よりも気合を入れて日夜写真撮影をするようになった。

健三郎も負けじと知り合いのカメラマンに頼んで毎日気合を入れて写真撮影をしていた。

「最近パッシャパッシャうるさいわねえ」

おおすみまや

大隅麻弥は音を思い出し、眉間にしわを寄せていた。

麻弥は美由と同じマンションに住む40代の主婦である。

「そうねえ。角能さんや大沢さんのお宅からよく聞こえてくるわ」

麻弥の主婦仲間、永竹綾美ながたけあやみも不愉快そうだ。

「しかも聞いた話によるといい歳してヌードになってるそうよ。子供の教育に悪いわ」

同じく麻弥の主婦仲間の古館伊佐江ふるだていさえは震えあがった。

「これはもう抗議するしかないわね！」

「そうね！」

麻弥達は美由の家の呼び鈴を押した。

しばらくして扉が開き、美由が出てきた。
当たり前だが、服を着ている。

「あらっ、大隅さんに永竹さんに古館さん」

「こんにちは。今日はお話があつて来たの」

「お話？」

「あなた、最近なんだかよく分からないけどヌード写真集の制作に凝ってるみたいね」

「ええ、これからの時代は「老婆」よ！」

「何が「これからの時代は「老婆」よ！」ですか！ 毎日毎日朝から晩まで写真を撮る音が何回も！ 夜も眠れませんよ！」

「しかも最近朝でも昼でも外で裸になってるそうじゃないですか！ 子供の教育に悪いじゃないですか！」

「その前に警察に捕まってるだろ」という者は誰もいないようだ。

「それで、やめろって言いにくたのね」

「もちろんよ！」

なぜタメ口だったり敬語だったりするのだ？

「ほほほほ！ このあたしがやめると思ってた？ いいこと、さつきも言ったとおりこれからの時代は「老婆」なの。あたしの自費出版写真集は飛ぶように売れて若い小娘どもが引つ込むのよ！」

「何バカな事言ってるの！ んな事あるわけないでしょう！」

「いいえ、あるわよ！ 見てらっしゃい！ あたしがあんだ達をあつと言わせてやるわ！」

「いいや、絶対あたし達はあつと言わない。あんたの写真集は絶対神に誓って売れないわ!」

もつと他の事を神に誓え。

「ふんっ、いいわよ。もし売れなかったら今月末の盆踊り大会で大沢健三郎と2人盆踊りを披露してやるから」

「言ったわね」

「今月末が楽しみだわ」

「まっ、売れないなんてバカな事ないと思うけど」

こうして美由の写真集と健三郎の写真集が発売された。

が、どちらも1冊も売れずに書店から大量に返品され、2人の部屋は大量の写真集で埋め尽くされた。

「まさかこんな事が起こるなんて」

「人生何が起こるか分からないものね」

美由と健三郎は写真集でいっぱいの美由の部屋を見てあ然とした。

「角能さん、大沢さん」

声がし、振り向くとそこには目を光らせた麻弥達がいた。

「あらっ、大隅さんに永竹さんに古館さん」

「言ったわよねえ、「売れなかったら大沢健三郎と2人盆踊り」って」

「ちよつとあんた、何勝手に人の名前使ってんのよ!」

美由に突っかかる健三郎。

「うるさいわね! 絶対売れると思ったから適当に言っただけよ!」

「さあ「2人盆踊り」とやらを見せてもらいましょうか」

こうして月末になり、美由と健三郎は盆踊り大会で2人盆踊りを披露する事になった。

「ちよつとあんた、バカな事言わないでよ! っていうかやるのはあんただけにしてよ!」

「うるさいわね! ホントにやる事になるとは思ってなかったのよ」

「!」

「ちょっと!　しゃべってないで踊りなさい!」

注意する麻弥。

「お、覚えてらっしゃい!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9064n/>

人生は100歳からよ！

2010年10月8日14時01分発行